

5 18歳になるまでの家庭における暴力の経験

最後に、回答者が18歳になるまでの家庭における状況を聞いた(図5-1)。なお、この調査においては、「親」は養父母を含んでいる。

“父は母に暴力をふるっていた”に「あてはまる」と答えた人は6.6%で、「どちらかといえばあてはまる」(7.5%)という人を合わせると、1割以上の家庭で父親が母親に暴力をふるっていたことになる。

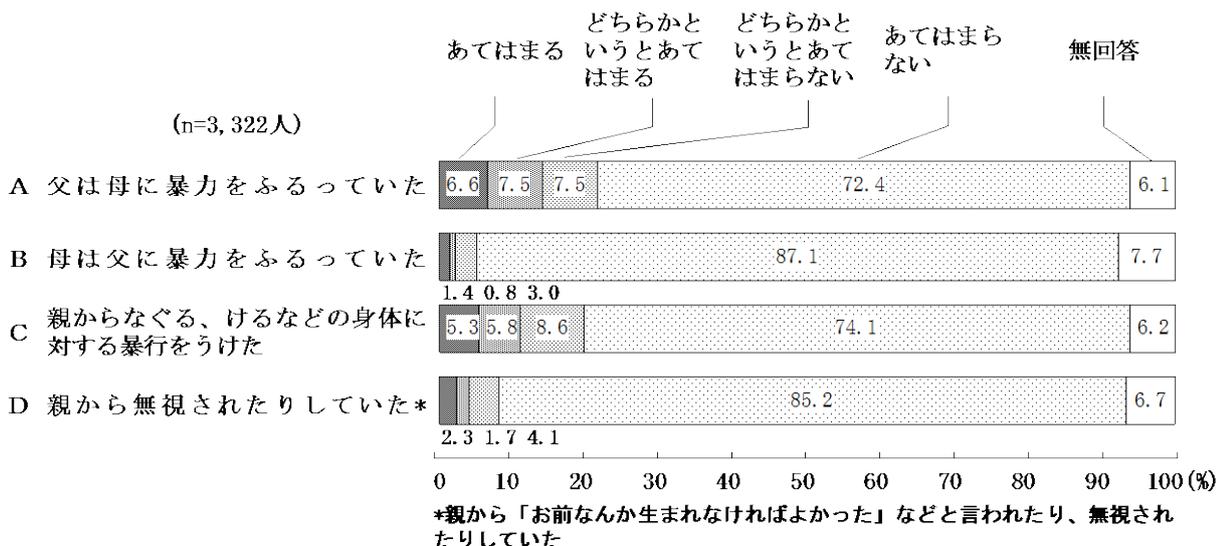
一方、“母は父に暴力をふるっていた”に「あてはまる」という人は1.4%で、「どちらかといえばあてはまる」(0.8%)という人を合わせても、母親が父親に暴力をふるったという家庭は2%程度にとどまっている。

“親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行をうけた”に「あてはまる」人は5.3%で、「どちらかといえばあてはまる」(5.8%)という人を合わせると、1割は親から身体的虐待を受けている。

さらに、“親から「お前なんか生まれなければよかった」などと言われたり、無視されたりしていた”に「あてはまる」人は2.3%で、「どちらかといえばあてはまる」(1.7%)と答えた人を合わせると、親から心理的虐待を受けていた人は4%である。

【全員の方に、お聞きします。】
 では、あなたが18歳になるまでの頃のことについて、お伺いします。
 問12 あなたの経験についてお聞きします。あなたが18歳になる以前に、あなたの親(養父母を含む)は次のようなことをしたことがありますか。AからDについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

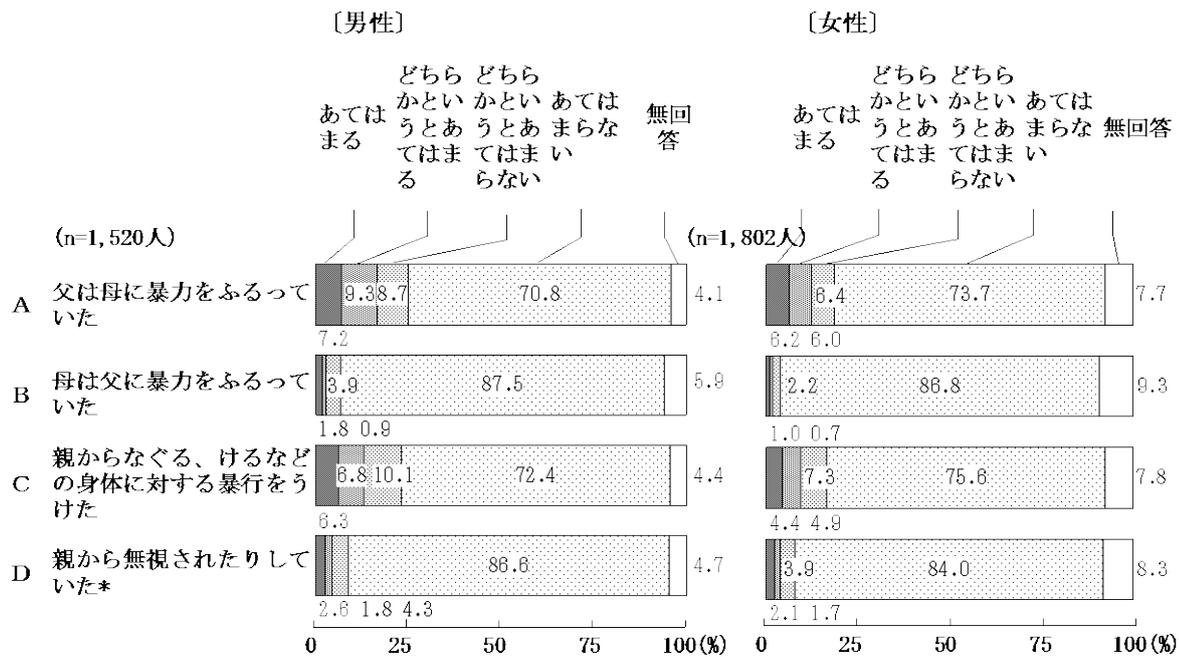
図5-1 18歳になるまでの家庭における暴力の経験



男女別にみると（図5-2）、いずれの項目についても男女とも「あてはまらない」もしくは「どちらかといえばあてはまらない」という人が多数を占めている。

“父は母に暴力をふるっていた”もしくは“親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行を受けた”という人は、女性より男性にわずかに多くなっている。

図5-2 18歳になるまでの家庭における暴力の経験（男女別）

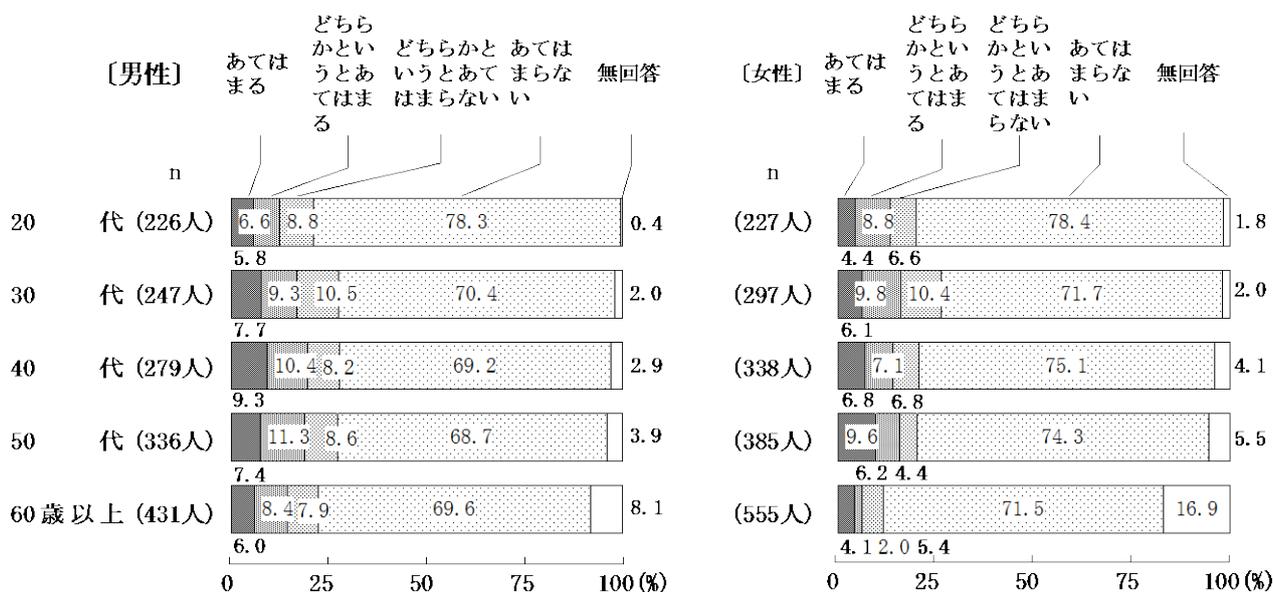


*親から「お前なんか生まれなければよかった」などと言われたり、無視されたりしていた

それぞれの項目について性・年齢別にみていく。

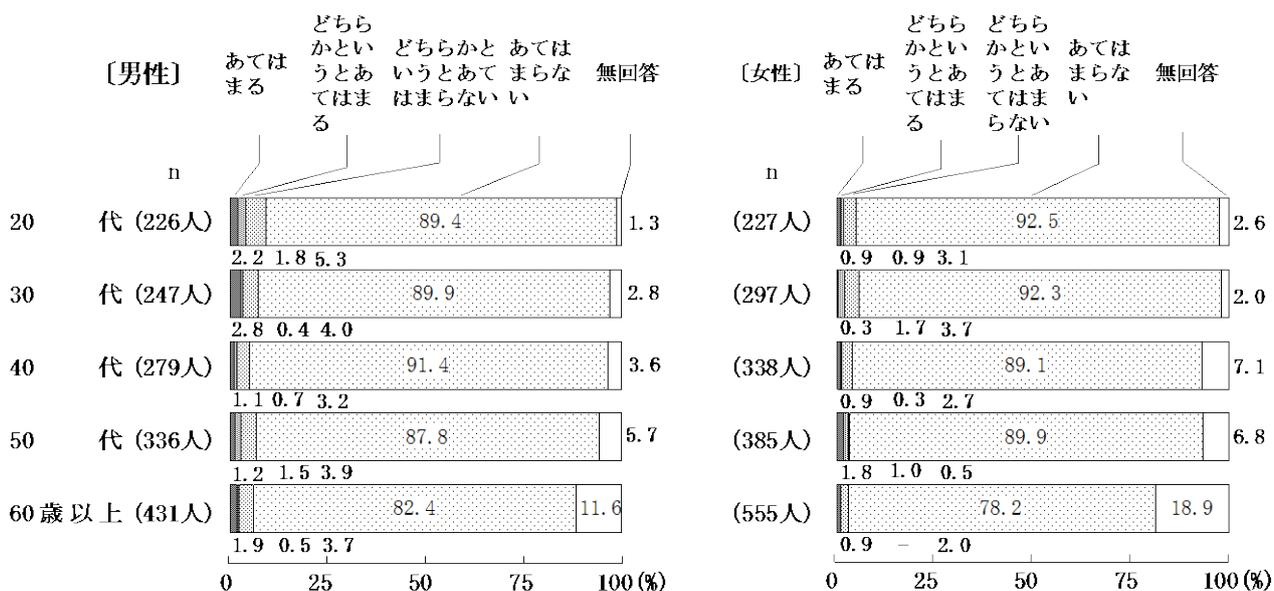
まず、“父は母に暴力をふるっていた”に「あてはまる」もしくは「どちらかといえばあてはまる」という人は、男女とも30代～50代でやや多くなっている（図5-3）。

図5-3 18歳になるまでの家庭における暴力の経験－“父は母に暴力をふるっていた”
(性・年齢別)



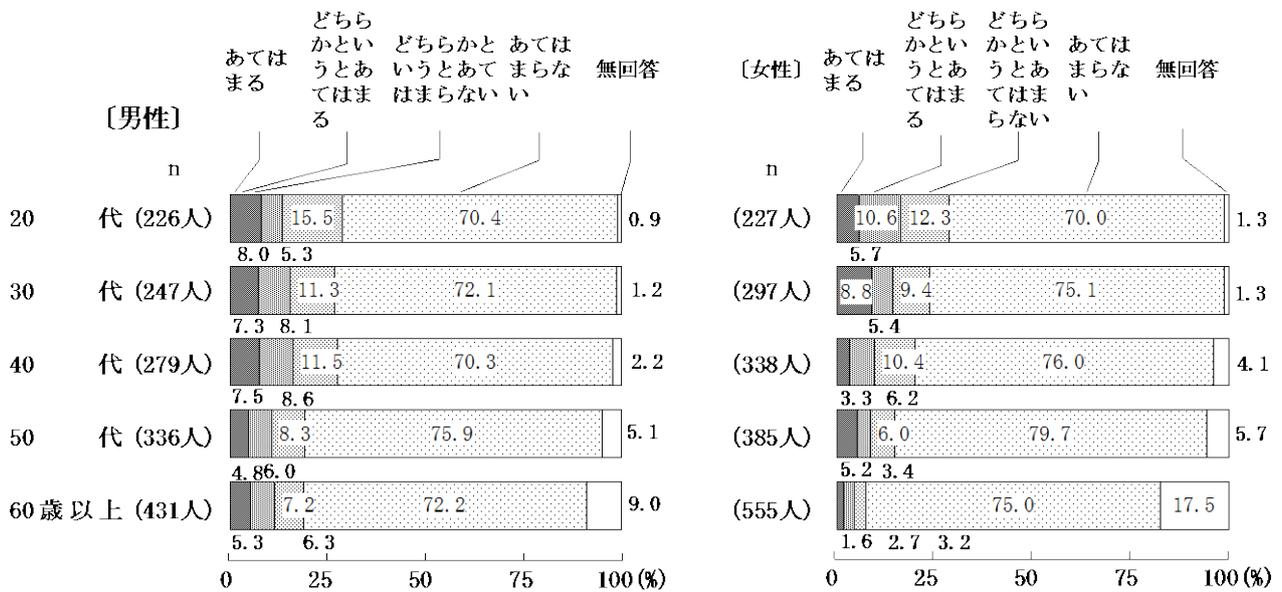
“母は父に暴力をふるっていた”については（図5-4）、いずれの性・年齢層でも「あてはまらない」もしくは「どちらかというあてはまらない」という人が多数を占めている。

図5-4 18歳になるまでの家庭における暴力の経験－“母が父に暴力をふるっていた”
(性・年齢別)



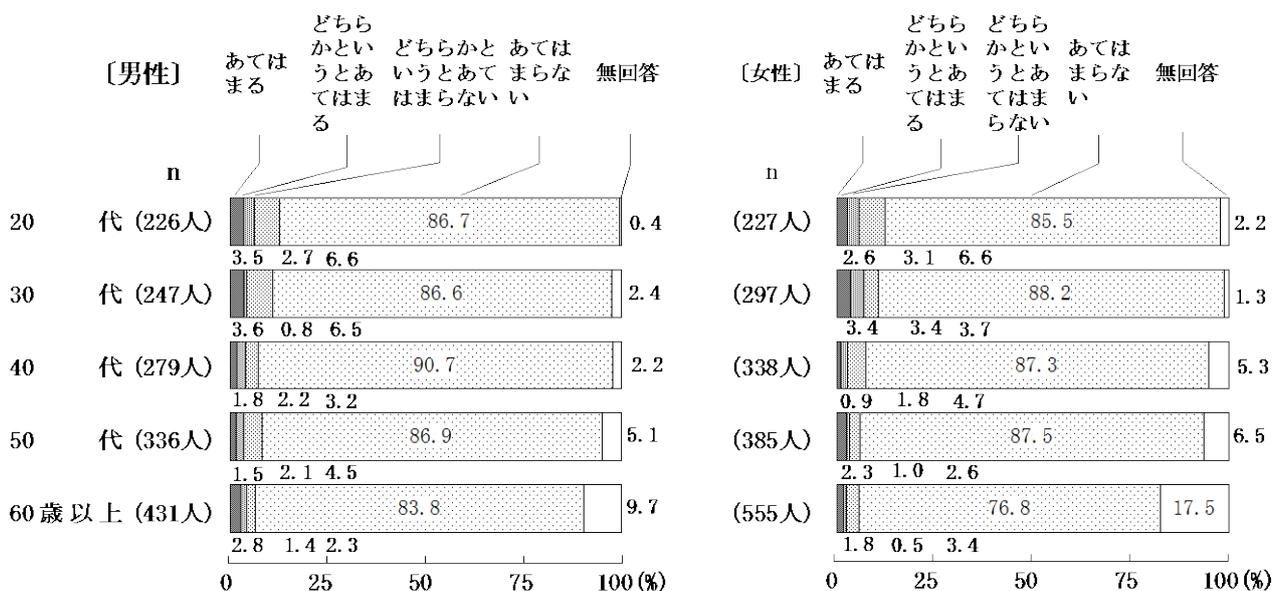
“親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行をうけた”は（図5-5）、男女とも若年層に「あてはまる」もしくは「どちらかというにあてはまる」と答えた人が多くなっているが、女性にその傾向がやや強く、20代では『あてはまる』（男性「あてはまる」8.0%+「どちらかといえばあてはまる」5.3%、女性・同5.7%+10.6%）という人が男性をわずかに上回っている。

図5-5 18歳になるまでの家庭における暴力の経験—“親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行をうけた”（性・年齢別）



“親から「お前なんか生まれなければよかった」などと言われたり、無視されたりしていた”に『あてはまる』（「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」）という人は、いずれの性・年齢層でも1割に満たない（図5-6）。

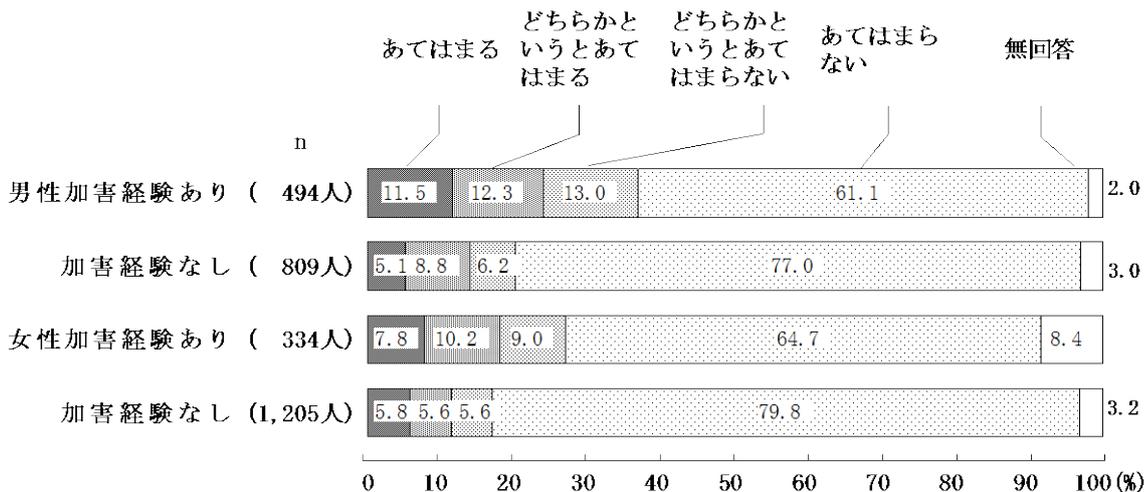
図5-6 18歳になるまでの家庭における暴力の経験—“親から「お前なんか生まれなければよかった」などと言われたり、無視されたりしていた”（性・年齢別）



さらに、各項目について、性・配偶者や恋人への身体的暴行の加害経験の有無別にみていく。

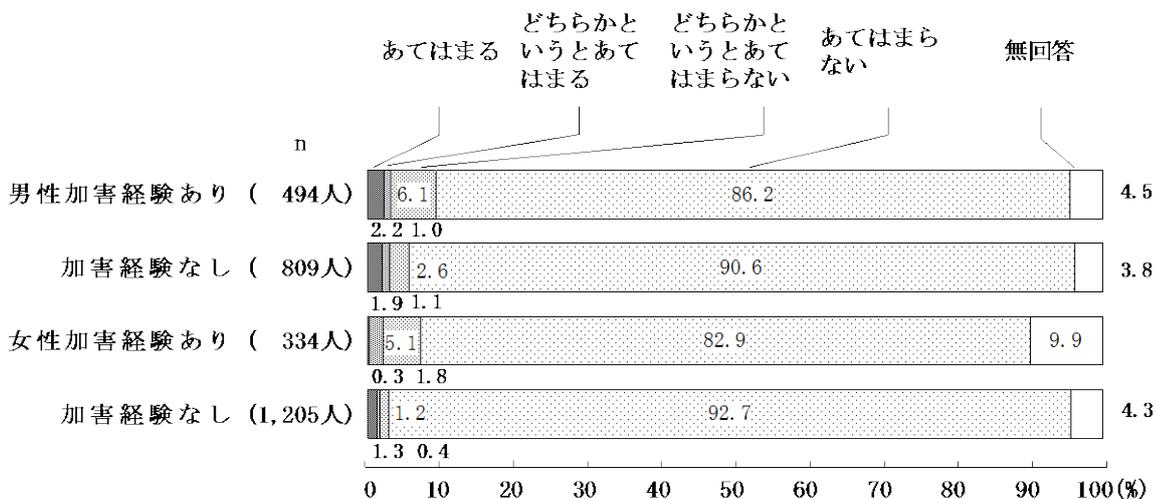
“父は母に暴力をふるっていた” ことに『あてはまる』という人は、男女とも加害経験がある人が、加害経験のない人より多くなっている。特に男性で配偶者や恋人への身体的暴行の加害経験のある人では、ほぼ4人に1人が、18歳になるまでの頃に父親が母親に暴力をふるっていた（「あてはまる」11.5% + 「どちらかというとはまる」12.3%）と答えている（図5-7）。

図5-7 18歳になるまでの家庭における暴力の経験－“父は母に暴力をふるっていた”
(性・身体的暴行の加害経験の有無別)



“母は父に暴力をふるっていた” については（図5-8）、性・加害経験の有無による差がほとんどみられず、『あてはまらない』（「あてはまらない」 + 「どちらかといえばあてはまらない」）という人が多数を占めている。

図5-8 18歳になるまでの家庭における暴力の経験－“母が父に暴力をふるっていた”
(性・身体的暴行の加害経験の有無別)

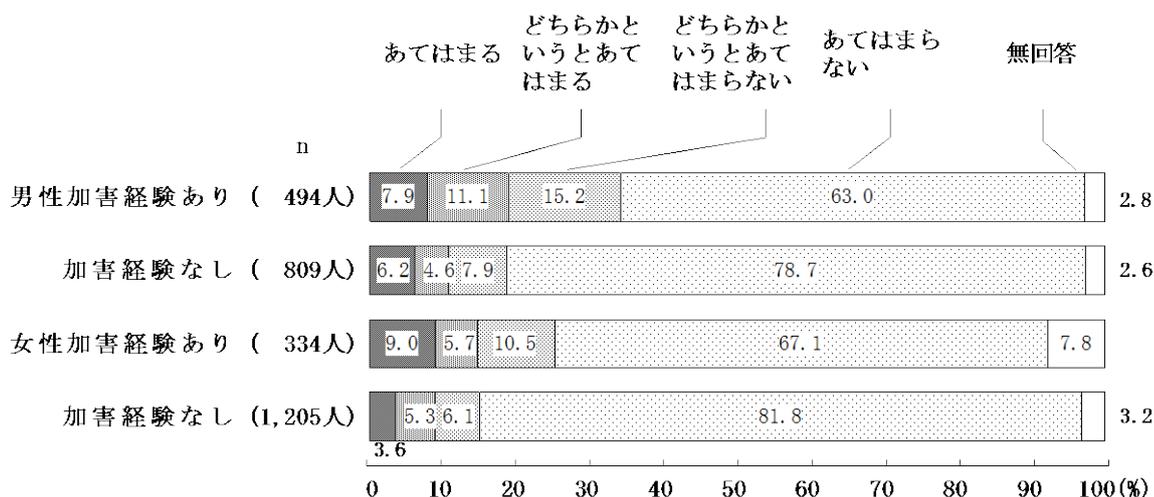


“親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行をうけた” ことについては（図5-9）、男女とも配偶者や恋人に対する加害経験の有無による差がみられ、特に男性の加害経験者では2割近くが、親から身体的虐待を受けている（7.9%+11.1%）。

図5-9 18歳になるまでの家庭における暴力の経験

— “親からなぐる、けるなどの身体に対する暴行をうけた”

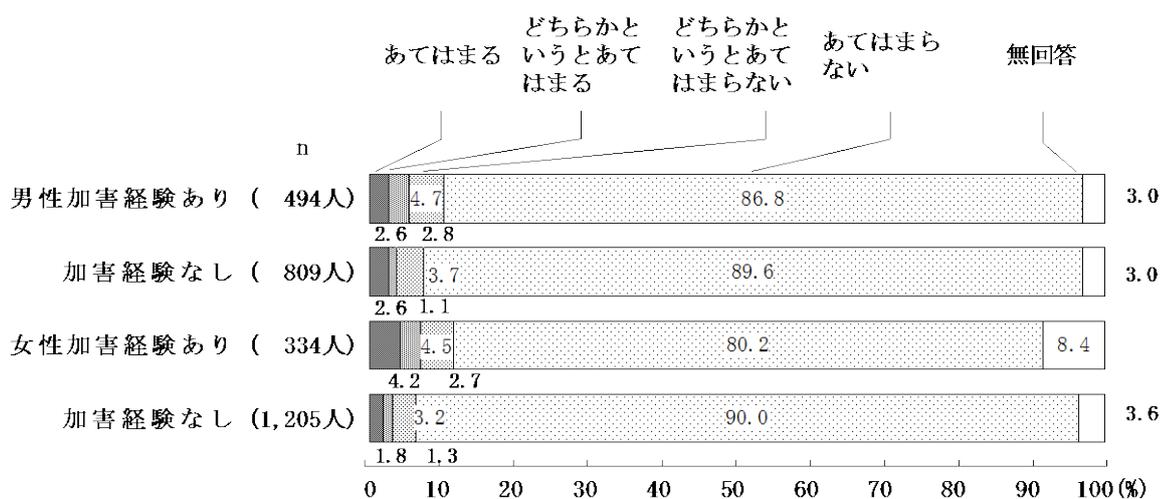
（性・身体的暴行の加害経験の有無別）



“親から「お前なんか生まれなければよかった」などと言われたり、無視されたりしていた” ことが『あてはまる』という人は、男女とも加害経験のある人にやや多くなっている（図5-10）。

図5-10 18歳になるまでの家庭における暴力の経験—“親から「お前なんか生まれなければよかった”

などと言われたり、無視されたりしていた” （性・身体的暴行の加害経験の有無別）

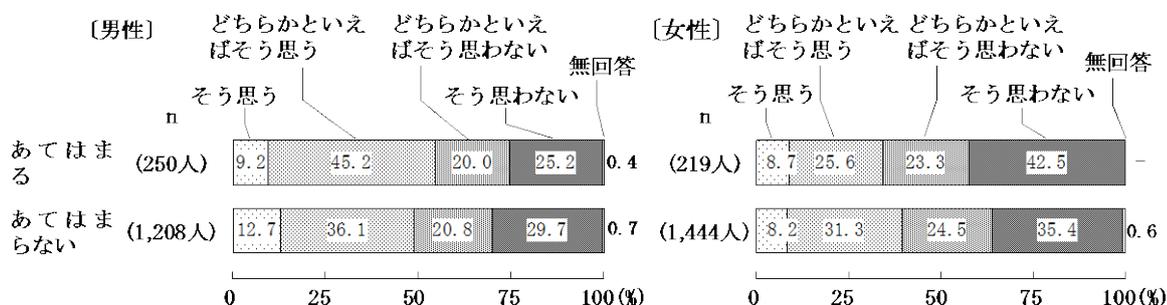


「あてはまる」もしくは「どちらかというにあてはまる」という回答が比較的多かった、18歳になるまでの家庭における“父親から母親に対する配偶者暴力”と“親から子どもに対する身体的虐待”の有無別に、さきに聞いた夫婦のあり方についての意識をみていく。

まず、「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という考え方を肯定する人（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は、男性では家庭内に父から母への暴力があった人（54.4%）の過半数を占め、暴力がなかった人（48.8%）を6ポイント上回っている（図5-11）。

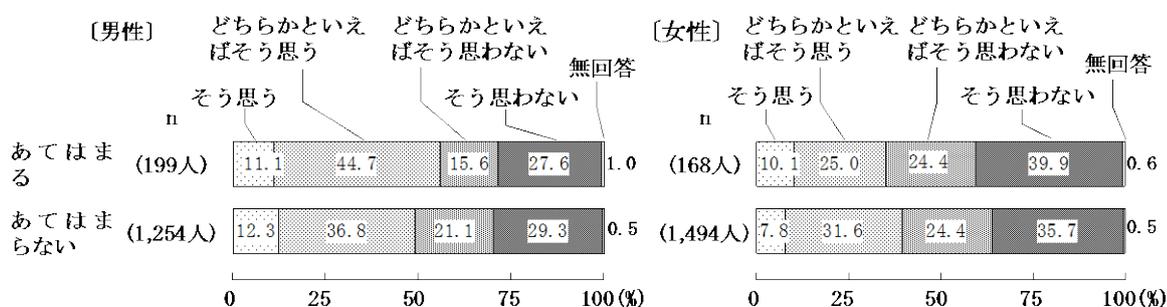
一方、女性で男女の固定的な役割分担を肯定する人は、18歳になるまでの家庭内に父から母への暴力があった人（34.2%）よりなかった人（39.5%）に多くなっている。

図5-11 「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という考え方（性・18歳になるまでの家庭での父から母への暴力の有無別）



「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という考え方に対する意識を、18歳までの親からの身体的虐待の有無でも（図5-12）、家庭内での父から母への暴力の有無と同様に、役割分担意識は、男性では虐待を受けていない人（49.1%）より受けていた人（55.8%）に、女性では虐待を受けていた人（35.1%）より受けていない（39.4%）に、それぞれ強くなっている。

図5-12 「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という考え方（性・18歳になるまでの身体的虐待の有無別）



次に、「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が、『よい妻』である」という考え方についての意識をみると（図5-13、図5-14）、肯定的な人（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は、男性では家庭内に父から母への暴力がなかった人（同9.9%＋27.9%）よりあった人（同10.0%＋33.2%）に、親から身体的虐待を受けていない人（同9.7%＋28.5%）より受けていた人（同11.1%＋29.6%）に多くなっている。これに対して、女性では、家庭内に父から母への暴力があった人（同4.1%＋8.7%）よりなかった人（同4.6%＋17.8%）に、親から身体的虐待を受けていた人（4.8%＋10.7%）より受けていない人（同4.2%＋17.1%）に、肯定的な人が多くなっており、その差は男性よりも女性の方が大きい。

特に、父から母への暴力がある家庭で育った女性の9割近くは、「素直に聞き入れる妻が『よい妻』である」という考え方に否定的（「そう思わない」60.3%＋「どちらかといえば」26.9%）である。

図5-13 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が、『よい妻』である」という考え方（性・18歳になるまでの家庭での父から母への暴力の有無別）

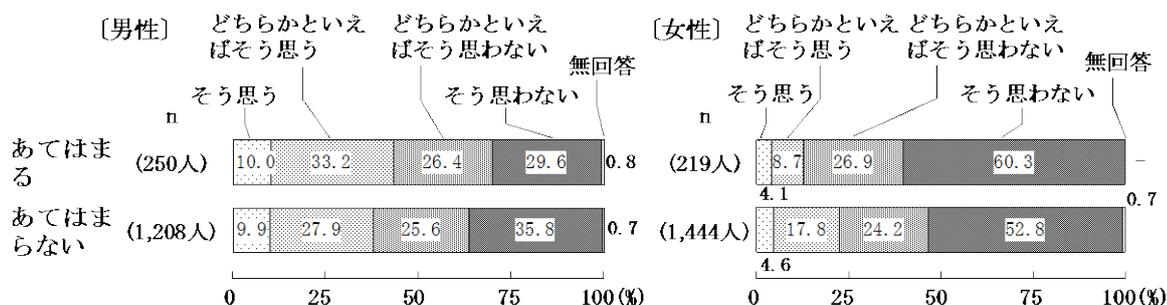
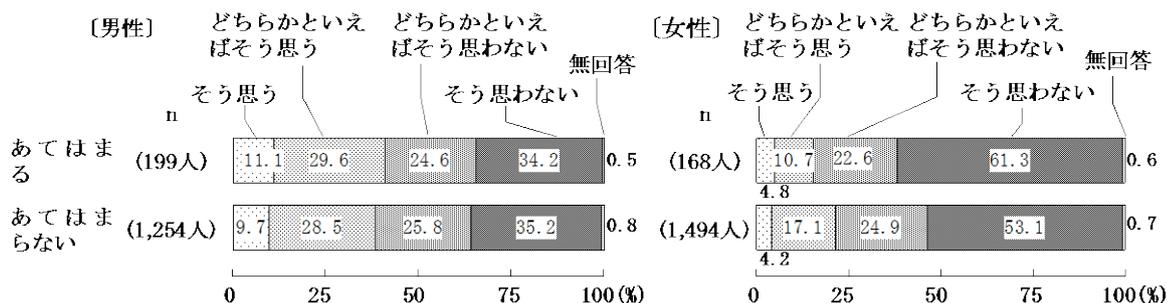


図5-14 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が、『よい妻』である」という考え方（性・18歳になるまでの身体的虐待の有無別）



最後に、「しつけや教育のために、夫が妻をたたくのは、やむを得ないことである」という考え方については（図5-15、図5-16）、男女とも18歳までの家庭での父から母への暴力と自分に対する身体的虐待の有無にかかわらず否定的な人（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が9割を上回っているが、男性で父から母への暴力や身体的虐待のあった家庭に育った層では肯定的な人が1割弱と、やや多くなっている。

図5-15 「しつけや教育のために、夫が妻をたたくのは、やむを得ないことである」という考え方（性・18歳になるまでの家庭での父から母へ暴力の有無別）

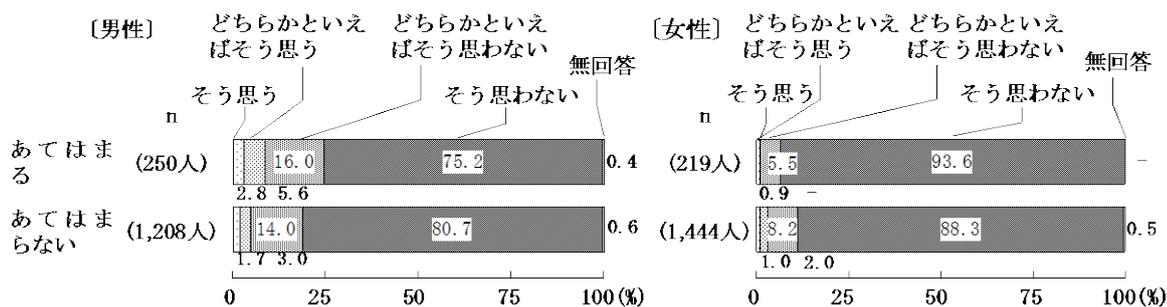


図5-16 「しつけや教育のために、夫が妻をたたくのは、やむを得ないことである」という考え方（性・18歳になるまでの身体的虐待の有無別）

